

PERCUSSION

パーカッション

太鼓は叩く楽器？

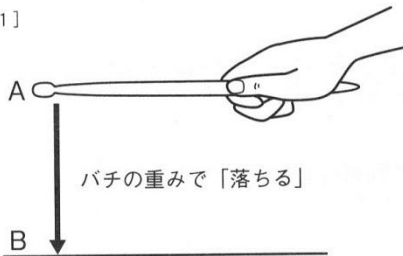
前回のメニューでやったドリブル運動、うまく力を抜いて弾ませられていますか？ コツの説明の中で「決して叩かない」と書きましたが、「叩かないって、どういうこと？」と疑問を持った方もいると思います。そこで今回は、このドリブル運動をさらに細かく見ていきましょう。

■「落として拾う」感覚をつかもう

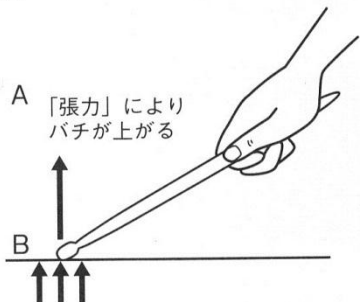
A地点から「落ちる」パチが(【図1】)、打面Bに当たり(【図2】)、その反動でAに戻ろうとするパチを「拾って」戻しています(【図3】)。その戻ってきたパチを再びBに向け落とすとまた…、といった運動の繰り返しドリブル運動です。

言葉にすると少し難しいのですが、重力によって落ちていったパチが、打面の張力によ

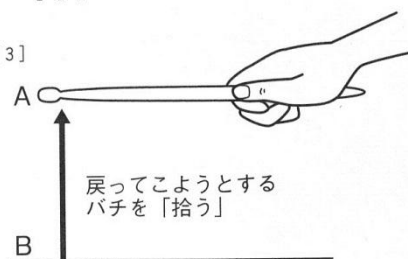
【図1】



【図2】



【図3】



って跳ね返され、それを拾い上げて再び落とすといった、まさに「落として拾う」という感覚です。よく考えてみれば、バスケのドリブルで、ボールを「叩く」人はいません。上手な選手はみな、ボールの「バウンドをコントロール」しているのです。

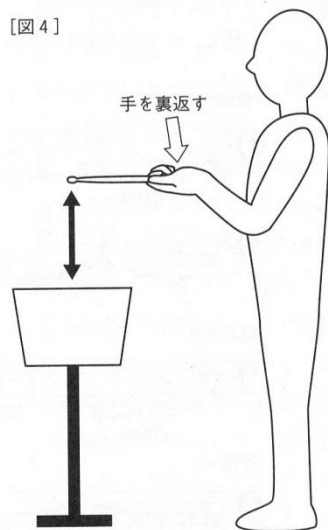
打楽器も同じ、スティックを「コントロール」するべきだと考えます。

■では、これを実際に体感してみよう

【図4】のようにパチを構え、小太鼓や練習台に落としてみましょう。このとき、いつもスティックを構えるフォームではなく、手の甲を下に向け、スティックをグリップする指が上を向くようにしましょう(要するに、手を裏返す感じですね)。

準備ができれば、構えた状態でスティックをパッと「離して」みてください。そして、打面にパチが当たった瞬間にスティックを拾い上げ、また元の位置にパチを戻してみま

【図4】



よう。パチの重みだけで落下させ、反動をこらさずにスタート地点へ戻す。まさに「叩く」のではなく、「落とす→拾う」を「コントロール」するのです。

最初は間隔をあけて、

【譜例】 ♩=60 ①~②の手順をくりかえす

①	R	R	R R	R R	R R R R	R R R R	R	L
②	L	L	L L	L L	L L L L	L L L L	L	R

ゆっくりとしたタイミングでやってみてください。うまく落として拾えるようになったら、今度はメトロノームに合わせて落としてみましょう(【譜例】)。

やってみると分かるのですが、この「物を落とす」という感覚、ジャストタイミングのテンポでは、意外と合わせづらいものです。落とす(パチを離す)タイミングや、落下してゆくパチのスピードなど、様々な要素を見極める必要があるのですが、あまり難しく考え過ぎず、まずは「パチを落とす」→「パチを拾う」という動きを体にしみこませましょう。

大切なのは「物(スティック)が落ちていくスピード」を実感することと、「落とした物が、どれくらいの力で跳ね返されるのか」を知ることです。そのためにも、ちゃんと張力を得られる練習台やふだん使っている小太鼓で練習することをおすすめします。

この練習の最大の目的は、前回書いた「フラットな状態」を知ることなのですが、小太鼓に限らず、大太鼓やティンパニで同じようにやってみると、この「ただ落として拾う」といった運動でも、楽器がちゃんと「響いて」くれることに気づきます。ふだん演奏している、いわゆる「叩く」行為によって生み出される音と明らかに違う「楽器の響き」が聴えてくるはずですよ。

もちろん、すべての楽曲をこの奏法で演奏するのはおそらく不可能ですが、この「落として拾う」感覚がベースにあり、その上でスピードやアタックの種類を変える(コントロールする)ことで、さまざまな音色の引き出しができるはずです。

この説明は次号でさらに掘り下げたいと思います。お楽しみに！

富田篤 とみた・あつし



- ◆出身 東京音楽大学
- ◆所属 フリーランス、アンサンブル「パーカッション・フォース」
- ◆趣味 映画鑑賞・ドライブ
- ◆血液型 B型
- ◆星座 うお座
- ◆読者にひとこと 「自分らしさ」を大切に
- ◆手紙の送り先 BJ 気付